

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



橋本動物病院長
(南砺市一日市)
橋本 晃聖

5

犬や猫をはじめとする多くの動物がペットとして家庭で身近に飼われるようになり、動物から人間にうつる病気が増えてきました。人と動物の共通感染症を「人獣共通感染症」と言います。わが国のペットから感染する可能性のある共通感染症は、約40種と考えられています。

病原体は、ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫などで、動物を含む自然環境下で生存しています。病原体が感染してうつることを「伝播」と言い、伝播には動物から直接人間にうつる「直接伝播」と、感染源動物と人間との間に何らかの媒介物が存在する「間接伝播」があります。

人と動物の共通感染症



感染症予防のため、ノミ駆虫剤を滴下される猫

身の回りを清潔に

身近な病気としてウイルスによって起こる「狂犬病」は、かみ傷によって感染します。人も動物も神経症状を発症し、治療法はないため死に至る病気です。「猫ひっかき病」は、細菌によって起こります。菌は猫の赤血球の中に存在し、動物は感染していても発症しませんが、人だけが発症し、リンパ節の腫れなどが見ら

なる感染症には、定期検査と定期駆除を行い、犬では狂犬病予防注射を受けることです。犬や猫の口腔内に常在する細菌による感染を予防するために、ペットとキスをしたり口移しに餌を与えたり、スプーンや箸を共用したりすることは控えましょう。

動物には病気を起こさなくても人に病気を起こす病原体があります。動物を触ったり、動物が排泄しやすい公園や砂場で遊んだりした後は、手をしっかり洗い、外傷のある場合は消毒しましょう。ペットと楽しく健全に生活して

れま。引っかけられたり、かまれたりして感染するほか、菌を持たないノミに刺されてもつります。予防のため日常生活で注意しなければならぬのは、まず動物の身の回りを清潔にして飼うことです。タニや蚊、ノミなどが原因と

いくためには、共通感染症の正しい知識を持つことです。しっかりと予防すれば、むやみに恐る必要はありません。ペットとの暮らしを一度見つめ直してみませんか。感染症の予防方法については獣医師にご相談ください。

れま。引っかけられたり、かまれたりして感染するほか、菌を持たないノミに刺されてもつります。予防のため日常生活で注意しなければならぬのは、まず動物の身の回りを清潔にして飼うことです。タニや蚊、ノミなどが原因と